

【競技規則】



作成：2026年7月20日
審判委員会

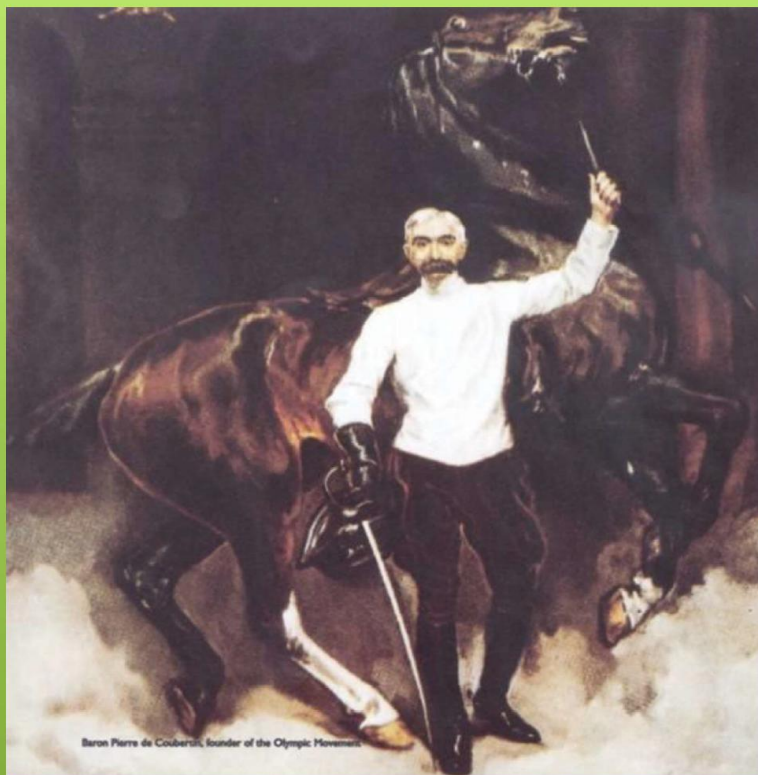


はじめに

【近代五種の歴史】



UIPM – 歴 史 ¹



オリンピックの父：ピエール・ド・クーベルタン



UIPM – 歴 史 2



1909 – ピエール・ド・クーベルタン 近代五種競技 を考案

1912 – 第5回ストックホルム五輪（スエーデン）オリンピック種目に採用 – 1日1種目

1928 – 第9回アムステル五輪（オランダ） – I O Cに加盟 – IFから2名を派遣

1934 – 第1回ヨーロッパ選手権（スエーデン）開催



UIPM – 歴 史 3



1948 – 第14回ロンドン五輪 – UIPM 創設

1949 – 第1回世界選手権（ストックホルム）

1954 – ポイントテーブルシステム導入（ブダペスト）

1965 – 第1回ジュニア世界選手権（ライプツィヒ）

1967 – 技術委員会 – 設置

1968 – 国際近代五種・バイアスロン連合



UIPM – 歴 史 4



1972 – 医科学委員会 設置

1974 – 第1回ヨーロッパカップ 開催

1978 – 最初の女子選手の国際大会 開催

1981 – 第1回女子世界選手権（ロンドン）開催

1984 – 第23回ロサンゼルス五輪 競技を4日間で実施



UIPM – 歴 史 ⁵



1987 – 初めてヨーロッパ選手権でリレー競技を実施（リスボン）

1988 – 国際近代五種・バイアスロン・トライアスロン連合（1年間のみ）

1989 – 初めてヨーロッパ選手権で女子リレー競技を実施

– 第1回ジュニア女子世界選手権 開催

1990 – 第1回ワールドカップ（男女）開催

1991 – ヨーロッパ連合 発足



UIPM – 歴 史 6



1993 – 初めて 1 DAY競技を世界選手権で実施（ダルムシュタット）

1994 – 第1回ユースA世界選手権 開催

– 射撃競技 エアピストル 10m競技にルール改正

– 初めてセミファイナルを世界選手権で実施

1995 – 第1回ヨーロッパユースA選手権 開催

– 第1回ヨーロッパユースB選手権 開催

1996 – 第26回アトランタ五輪 1 Day競技とし個人競技のみ実施（男子32名）

– 第1回ジュニアヨーロッパ選手権 開催



UIPM – 歴 史 7



2000 – 第27回シドニー五輪 女子個人競技が五輪種目に追加

– 男子24名、女子24名

2004 – 第28回アテネ五輪

– 男子32名、女子32名

2008 – 第29回北京五輪

– 男子36名、女子36名



UIPM – 歴 史 ⁸



2009

－ 複合競技を導入

射 撃 & ランニング

男女混合リレー



UIPM - 歴 史



2010

レーザーピストル導入



UIPM - 歴史 10



2013

フェンシング競技 ボーナスシステム導入

THE PENTATHLON STADIUM

2020 東京五輪

同一会場で5種目実施





2023年

馬術競技からオブスタクル競技に種目転換を決定

2024年

オブスタクル競技：ジュニア・ユースは先行的に導入

【考 察】

・馬術競技からオブスタクル競技になぜ転換？

＊競技特性

＊世界的な背景

＊IOCは・・・

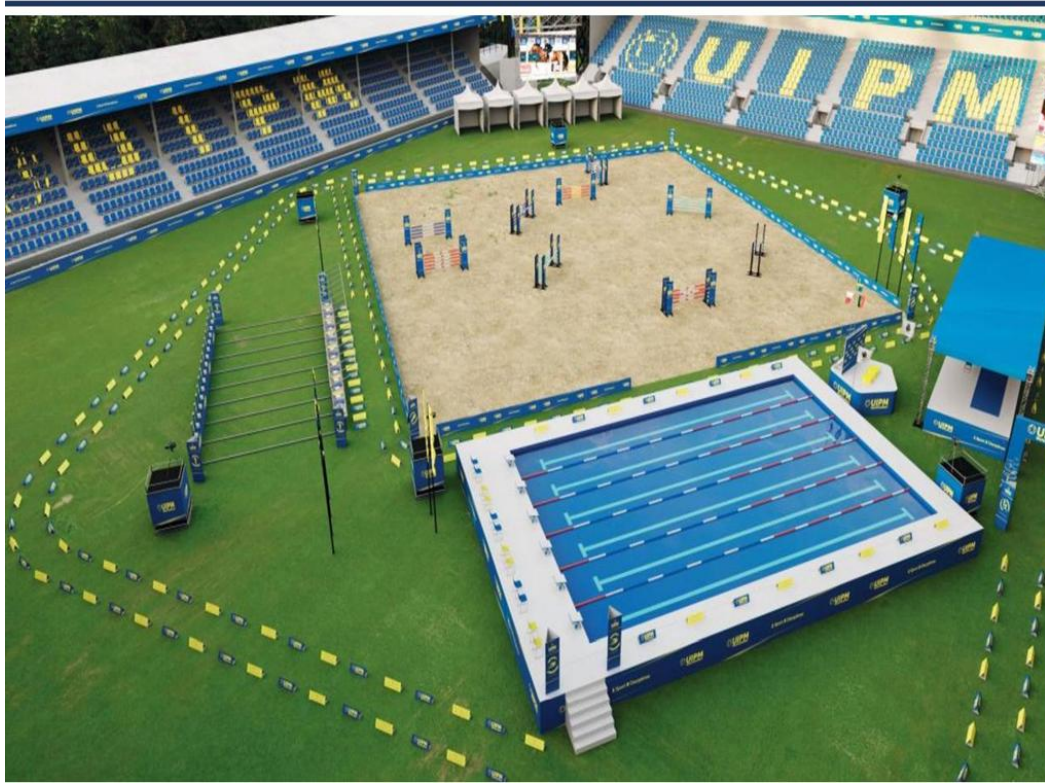
＊UIPMは・・・





2024年パリオリンピック 予選・決勝共に18名で実施 (2022年1月から)

Modern Pentathlon: new Olympic format





2025年

オブスタクル競技を含めたNewフォーマット

- * カテゴリー「A」の競技では、準決勝と決勝はフェンシング、障害物、水泳、レーザーランの順で行われます。
- * 競技間の接続
 - ・ フェンシングと障害物の間に **5 分**
 - ・ 障害物と水泳の間に **5 分**
 - ・ 水泳とレーザーランの間に **1 0 分**
- * フェンシングのシード
 - ・ 準決勝の前に1回のフェンシング・シーディング・ラウンドが開催され、準決勝と決勝の両方に適用されます。
 - ・ オリンピック、ユースオリンピック、ワールドカップファイナルでは、フェンシング世界ランキングによってシード順を決定します。
- * レーザーラン
 - ・ 常に**ハンディキャップスタート**で実施します。

2028年 L A オリンピック

※参加選手数：男女共に32名に変更





2026年

ルールの一部変更

- 水泳競技

200m自由形 ⇒ 100m自由形



- レーザーラン競技

射撃回数：4回 ⇒ 5回





第 1 章

【 総 則 】



I 総 則

1 (1) 年齢別カテゴリー

- 8歳以下 - アンダー9
- 9 - 10歳 - アンダー11
- 11 - 12歳 - アンダー13
- 13 - 14歳 - アンダー15
- 15 - 16歳 - アンダー17
- 17 - 18歳 - アンダー19
- 19 - 21歳 - ジュニア
- 22歳以上 - シニア
- 30 - 39歳 - マスターズ 30+
- 40 - 49歳 - マスターズ 40+
- 50 - 59歳 - マスターズ 50+
- 60 - 69歳 - マスターズ 60+
- 70歳以上 - マスターズ 70+



- 年齢別カテゴリー区分：競技年次中を通じて、それぞれの**カテゴリー範囲年齢**であることが必要です。
- マスターズ競技を除き、選手は自分の年齢カテゴリーの**直近上位のカテゴリーで競技が可能**です。
(UIPMや大会主催団体等の承認を得て、選手は自身のカテゴリーを幾つか超えて競技することができます。)



1 (2) UIPM競技会カテゴリー

UIPMカテゴリー「A」競技会

- * オリンピック及びユースオリンピック
- * UIPM世界選手権（シニア、ジュニア、U19/17/15）
- * UIPMリレー世界選手権（シニア、ジュニア、U19/17）
- * ワールドカップシリーズ
- * 各大陸選手権
- * CISM世界選手権

UIPMカテゴリー「B」競技会

- * 世界ランキング大会（シニア、ジュニア、U19/17/15の公式大会）
- * 地域選手権とゲーム
- * 世界マスターズ選手権
- * コンチネンタルマスター選手権
- * その他の世界ランキング大会

UIPMカテゴリー「C」競技会

- * オープン全国選手権
- * マスターズ大会。
- * 特定のユース大会。



1 (3) 各競技会のレベル区分

レベル1	オリンピック、世界選手権、ワールドカップ決勝
レベル2	大陸選手権/ゲーム、ワールドカップ大会、レベル2の基準を満たすCISM世界選手権
レベル3	レベル3の大陸選手権、ワールドカップ大会、レベル2の基準を満たさないCISM世界選手権の基準を満たす地域選手権/大会および国際世界ランキング大会
レベル4	大陸選手権、ワールドカップ大会、CISM世界選手権、地域選手権、およびレベル3の基準を満たさない国際世界ランキング大会。

※それぞれの競技レベルによってワールド ランキング ポ イントが与えられます。



各レベルの付与ポイント（抜粋）

Place	Competition levels			
	1	2	3	4
1	80	60	40	20
2	75	55	36	17
3	70	51	33	15
4	66	48	31	13
5	63	46	29	11
6	60	44	27	10
7	58	42	25	9
8	56	40	23	8
9	54	39	22	7
10	52	38	21	6
11	50	37	20	5
12	48	36	19	4
13	46	35	18	3
14	44	34	17	2
15	42	33	16	1
16	40	32	15	1
17	39	31	14	1
18	38	30	13	1
19	33	25	9	1
20	32	24	8	1



各競技会レベルの基準

1.19.2 UIPM競技会のレベル

i) PWRを設立する目的で、UIPM競技会は4つのレベルに分かれています。

レベル1：オリンピック、世界選手権、ワールドカップ決勝

レベル2：大陸選手権/大陸大会、ワールドカップ大会、レベル2の基準を満たす競技会

レベル3：レベル3の基準を満たす地域選手権/地域大会及び国際世界ランキング大会

レベル2の基準を満たさない各選手権、ワールドカップ大会

レベル4：大陸選手権、ワールドカップ大会、地域選手権、国際世界ランキング大会で、レベル3の基準を満たさない競技会

ii) 競技会レベル2～4を決定するための基準：

	Level 2						Level 3						Level 4					
	EUROPE			OTHER CONT.			EUROPE			OTHER CONT.			EUROPE			OTHER CONT.		
	Nat.	Ath.	%	Nat.	Ath.	%	Nat.	Ath.	%	Nat.	Ath.	%	Nat.	Ath.	%	Nat.	Ath.	%
Men	10	32	30	5	24	10	8	24	20	4	20	5	6	18	5	3	16	0
Women	8	30	30	5	20	10	6	20	20	4	16	5	4	16	5	3	12	0

NAT= 出場国数：大会に出場した国のうち、5種目すべてに最低1人の五種選手が出場した国のみ

ATH= 五種選手の数：シニア、ジュニア、U19、U17の5つの種目すべて、またはU15の4つの種目すべてを完了した五種選手のみが考慮されます。

DNF と **EL** は有効な結果です。

DNS と **DSQ** はカウントされません。

アスリートは、以下の最低限の結果を達成している必要があります：

シニアとジュニア：男性875ポイント、女性800ポイント

U19およびU17：男性775ポイント、女性700ポイント

U15：男性665ポイント、女性600ポイント

‘%’ = 現在のPWRリストの上位100位以内にあるペントアスリートの割合(%)を示します。



2 競技順序

- ・ フェンシング、オブスタクル、水泳、レーザーラン

3 有効期間

- ・ 2025. 1～2026. 12

4 個人競技

i) カテゴリーA競技会の準決勝・決勝は以下のとおり。

フェンシングDE、オブスタクル、水泳、レーザーラン

ii) オリンピックとワールドカップファイナルも i) と同様です。

iii) カテゴリーAの大会でセミファイナル進出選手決定後、**単一の**

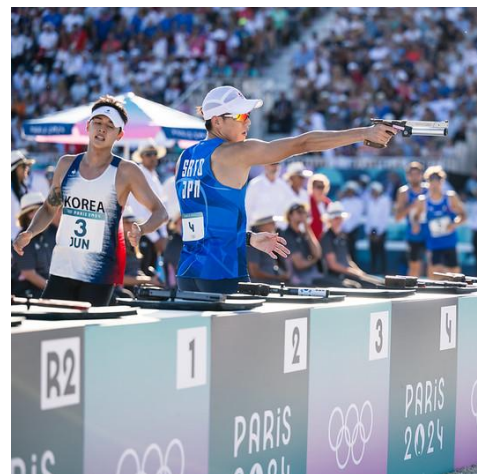
フェンシング SRはセミファイナルの前に実施し、そこで得られた

シード順はセミファイナルとファイナルの両方で用いられます。

オリンピックとワールドカップファイナルのフェンシングシード順

は、フェンシング・ワールドランキングによって決定されます。

レーザーランは、常にハンディキャップスタートで編成する必要があります。





5 競技日程

・世界選手権

Day 1 : 男子個人予選 又は 女子個人予選

Day 2 : 女子個人予選 又は 男子個人予選

Day 3 : 男子個人セミファイナル 又は 女子個人セミファイナル

Day 4 : 女子個人セミファイナル 又は 男子個人セミファイナル

Day 5 : 女子個人ファイナル 及び 男子個人ファイナル

・予 選

各グループの上位 (2G=18名、3G=12名、4G=9名)
がセミファイナルに進出

・セミファイナル

36名の選手が進出し、18名2グループを編成

・ファイナル

18名の選手で編成、各グループ上位9名が
ファイナルに進出





- ・ ワールドカップシリーズ

Mixリレーは実施せず、5日間で実施

※個人競技方式は世界選手権同様

- ・ ワールドカップファイナル

Day 1 : 男子個人セミファイナル 又は 女子個人セミファイナル

Day 2 : 女子個人セミファイナル 又は 男子個人セミファイナル

Day 3 : 女子個人ファイナル 及び 男子個人ファイナル



※36名の選手が出場し、18名2グループを編成

ファイナルは、18名の選手で編成

各グループ上位9名がファイナルに進出

6 カテゴリーA競技会の種目間インターバル

フェンシング/オブスタクル : **インターバル5分間**

オブスタクル/水泳 : **インターバル5分間**

水泳/レーザーラン : **インターバル10分間**



7 競技の成績

(1) 最終順位：レーザーランのフィニッシュラインを最初に越えた選手/チームが勝者です。

(2) 同点(競技途中)：

- ・ 2～4つの種目の後、同点があれば、2人以上のアスリートの間で、最後の種目で最高の結果を得たアスリートがより上位にランクされます。
- ・ 最後の種目が同点の場合は、その前の種目で最高の結果を得た選手がより上位にランクされます。
- ・ 前の種目も同点の場合はPWRの順位が高い選手が上位に配置されます。

(3) 同点(最終結果)：

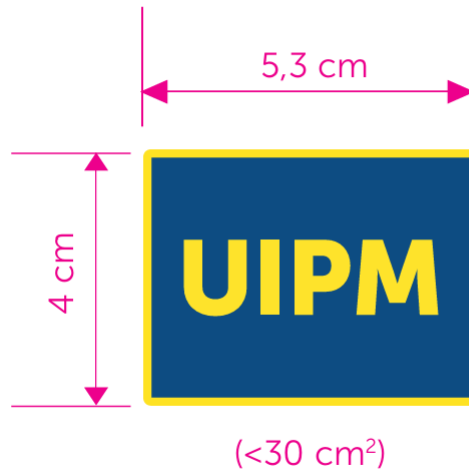
- ・ レーザーランを終了して、同点の場合、レーザーランで最高の結果を得た選手は、より上位にランクされます。
- ・ L-Rが同点の場合は、水泳で最高の結果を得た選手が上位に、以下(オブスタクル、フェンシング)により順位を決定します。
- ・ もし、それでも同点の場合、PWRの順位が高い選手が上位に配置されます。





8 UIPMマークの一般原則

競技中のすべてのユニフォームにUIPMマークを使用



2026版



旧式版



9 競技会の主要役員

(1) UIPMテクニカルデリゲート

- ・ UIPM TDは、UIPM TCが提案し、UIPM EBが任命するすべての分野において、UIPMレベル3認定国際審査員です。カテゴリーAの競技会では、TDはTCのメンバーでなければなりません。UIPM TDは、すべてのUIPM競技会がUIPMルールと規約に準拠して運営されていることを確認する任務を負っています。
- ・ UIPM TDはホスト国から来てはならないことが義務付けられています。1人から4人のTDが、競技のレベルと規模に応じて任命されます。OG 3 TDとYOG 2 TDが任命されます。OGまたはYOGの予選となる競技会では、最低2TDが任命されます。
- ・ UIPM TDは、その全体的な権限の中で、特に以下の任務を負います。
 - a) 5つのイベントの会場と設備を検査し、承認すること。
 - b) LOCが手配した参加者の輸送を検査および承認すること。
 - c) TMの管理においてLOCと協力し、競争ルールに関する最新情報が利用可能であることを保証すること。
 - d) 参加者の服装や装備のチェックの手配を監督する。
 - e) 上訴審の正しい手続き等の管理を確保する。
 - f) エントリーを確認し、LOCと共にグループ編成を準備します。
 - g) 競技結果の正確性を確認検証するとともに署名を行い、結果と最終報告書を電子メールでUIPM本部とTC委員長に迅速に送付します。
 - h) LOCがこれらの競技結果をUIPM本部に迅速に送信できるようにします。



(2) UIPM NTO (ナショナルテクニカルオブザーバー)

- ・ カテゴリーBまたはCの競技会では、UIPM 技術委員会の委員長が TD の代わりに UIPM NTO を指名することができます。
- ・ NTO は次の要件を満たす必要があります。
 - a) すべての分野でUIPMレベル3認定の国際審判員であること。
 - b) 国内または競技会が開催される場所の近くに住んでいます。
 - c) 国内主催者の競技会役員に統合され、その国際競技会に常時出席します。
 - d) 競技会の期間中、その権限は保証される。
- ・ NTO は、競技会において TD と同じ義務を負います。

(3) UIPM II (国際審判員)

- ・ 競技会のレベルとサイズに応じて、最低2名から最大9名がUIPM TCによって UIPM公認審判員リストから選ばれ、UIPM EBによってカテゴリーAおよびB競技会の国際審判員として行動することが承認されます。
- ・ UIPM IIは、すべてのイベントで組織連盟/LOCが利用できますが、フェンシング、オブスタクル、レーザーランではUIPM IIを使用する必要があります。審判員は、自分の連盟の五種競技選手を含む試合やレースで審理することはできません。。
- ・ UIPM国際審判員は、特定の技術ガイドラインで定義されている資格を得る必要があります。



(4) UIPM MD (メディカルデリゲート)

・1人のMDは、UIPM世界選手権およびその他の主要なイベントに対して、UIPMアンチ・ドーピング手順およびUIPMメディカルルールの遵守を確保し、病気や負傷したアスリートに薬物を投与しようとするチームキャプテンに助言するために、WADAコードで禁止されている物質や方法が誤って使用されないようにするために、UIPM医学委員会の委員長によって任命されます。

(5) UIPM BAD (ビジネス業務代表)

・各カテゴリーAの競技会について、UIPMは、マーケティング宣言に基づく義務を負うペンタリン選手およびチーム選手のコンプライアンスLOCを監視および実施する責任を負うUIPMビジネスAエアデリゲート(BAD)を任命します。。



(6) ジュリー・オブ・アピール（上訴審判員）【抜粋】

- ・他のUIPMカテゴリーA競技会では、上訴審の審判員は7人のメンバーで構成されています。他のすべてのUIPM競技会では、5人のメンバーで構成されています。
- ・オリンピック、世界選手権、ワールドカップでは、このうち2人がTDです。
 - a) 3人目の上訴審判員は、近代五種競技の5つの国際審判員資格を保有したLOCの代表である。
 - b) さらに3人のメンバーはUIPM TCのメンバーである必要があります。
 - c) 7人目の上訴審判員は、近代五種競技の5つの国際審判員資格を保有するチーム代表でなければならない。このNFの代表者は、関連する大会で開催される最初のTMでチーム代表によって選出されます。
 - d) UIPM TCのメンバーは、近代五種競技の国際審判員資格を持つ者と交代することができる。
- ・UIPMカテゴリーB競技会では、5人の上訴審判員のうち1人がUIPM TD/NTDであり、委員長を務める必要があります。上訴審判員はさらに、5つの近代五種競技の国際審判員資格を保持しなければならないLOCの代表者1人で構成される。
 - a) 他の2名の上訴審判員は、近代五種競技の5つの国際審判員資格を保有した審判員でなければならない。
 - b) 5人目の上訴審判員は、近代五種競技の5つの国際審判員資格を保有するチーム代表でなければならない。このNFの代表者は、関連する大会で開催される最初のTMでチーム代表によって選出されます。
- ・上訴審判員には、イベントディレクターを含めることはできません。